



2026年3月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は最高気温が 30 度前半で盛夏は過ぎました。

1 月に発生した大規模な森林火災は各地で鎮火をしており、2 月末で数か所の森林火災が発生している状況です。今年の燃焼面積は昨年より約 20%減少しています。

今月 11 日就任する新大統領カスト（右派）がトランプ政権とどのような関係を築いていくのか注目されています。

チリ銅価格は過去最高の 6 ドルを超えた後、5.7 ドル台でやや弱くなってきました。為替市場は 850-860 ペソで、引き続きペソ高ドル安傾向が続いています。

2. 世界市況

2025 年 1 月から 12 月までのチリからアジア向け製材輸出数量が発表されました。

全体の輸出数量は昨年より約 12%減少して、日本向けは約 10%の減少でした。

	<u>2025 年</u>	<u>2024 年</u>
日本：	142,620 m3	157,927 m3
韓国：	349,832 m3	361,494 m3
中近東：	220,063 m3	289,215 m3
中国：	219,658 m3	221,621 m3
ベトナム：	179,331 m3	222,44 m3
台湾：	16,296 m3	18,900 m3
タイ：	41,116 m3	25,120 m3
カンボジア：	34,267 m3	53,500 m3
インドネシア：	21,262 m3	37,980 m3
アジア合計	1,224,445 m3	1,388,205 m3

2月28日にイスラエルと米国がイランへ軍事行動を開始しました。その影響は中近東各国、ホルムズ海峡の封鎖懸念等、世界的な出来事になっております。アラウコとCMPCは中近東へ年間6回のバルク配船を今年は予定をしております、今後の戦況によっては生産プログラム、配船スケジュールの再検討があるかもしれません。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

12月バルク配船(5番船)は日本へ予定通り2月に入港しました。

3月配船(1番船)はバルク配船からコンテナ配船へ切り替えましたが、当初予定していた3月第1週から6週間のコンテナ配船計画は各製材工場が生産プログラムを組むことに難色を示した為、3月中下旬の2回配船スケジュールに変更をしました。

日本各港へは韓国釜山、中国上海経由で5月連休明け以降に寄港する予定です。

次回5月配船(2番船)は7月に日本各港へ寄港する予定で、再びバルク配船に戻す計画でバルク配船による安定供給を継続したい意向です。

b) 梱包市況

日本は高市政権の動向、トランプ相互関税の停止、米国による新関税検討、日中問題等の課題が多くあり、今年の国内景気はまだ不透明感があります。

昨年後半からの輸出梱包市場は回復傾向にありますが、今年1月以降は仕事量が減る業種もあり、ラジータパインと国産材の競合する市況もあります。

3月年度末に向かいパレット材の引き合いは増えており、国産材の製材工場では納品に1ヶ月以上かかる地域も出ています。

チリ材輸入業者は155円以上の為替コスト上昇、港湾コスト上昇等、製材販売価格に転嫁をしなければならず、今後3-4月にかけて2,000-3,000円の値上げを検討している業者もおります。

国産材製材業者も製材コストの上昇が続いており、既に3,000円の値上げを目標に始めている業者も出てきております。

チリ製材は昨年12月に出港した5番バルク配船の寄港が終わり、次回の3月配船

(1番船)はコンテナ配船になります。アラウコは5月配船(2番)をバルク配船に戻す計画です。しかし、3月コンテナ配船の日本到着が遅れる可能性もあり、各社の在庫管理が難しくなることも考えられます。

5月配船が再びコンテナ配船になるとアラウコがバルク配船に戻すタイミングが厳しくなる可能性もあります。

以上